

外科専門医・消化器外科専門医後期臨床研修プログラム（外科）

1. プログラムの目的と特徴

日本外科学会専門医の取得

一般外科・消化器外科の専門知識と技術の取得

2. 取得できる専門医

外科専門医

* 消化器外科専門医は外科専門医を取得の後、研修継続によって可能

3. 専門医取得の要件

* 初期臨床研修期間を含んで満4年以上経た段階で、予備試験である筆記試験を受験できる。

* 卒後満5年以上を経た予備試験合格者は、以下に示す最低手術症例数を充足した段階で、認定試験となる面接試験を受験できる。

(1) 術者または助手として手術手技 350 例以上の経験

(2) 術者として 120 例以上の経験

< 領域別最低症例数（術者・助手を問わず） >

① 消化管および腹部内蔵（50 例）

② 乳腺（10 例）

③ 呼吸器（10 例）

④ 心臓・大血管（10 例）

⑤ 末梢血管（頭蓋内血管を除く）（10 例）

⑥ 頭頸部・体表・内分泌外科（皮膚、軟部組織、顔面、唾液腺、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎など）（10 例）

⑦ 小児外科（10 例）

⑧ 各臓器の外傷（多発外傷を含む）（10 例）

⑨ 鏡視下手術（領域別分野、術者・助手を問わず）
（10 例）

4. プログラムの研修内容

後期研修期間は3～4年とする。患者は、複数の主治医体制で診療。その中で受け持ち患者は筆頭主治医として診療する。術前検査、診断、術前カンファレンス、手術、術後管理と一連の流れの中で外科診療を経験し、診療技術の習得、向上に努める。

また、外来は週1回担当する。

さらに、2, 3年次の間に心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科を研修する。研修期間は、各々2ヶ月間を原則とする。また、希望があれば消化器内科(3ヶ月間)での研修も可能である。

年次別のプログラムの概要は以下のとおりである。

【到達目標】

(研修1年目)

入院患者10から20名を複数主治医体制のもとに担当。術前検査、診断、手術、術後管理と一連の基本的な外科診療技術を習得する。

習得する検査手技としては、上部・下部消化管造影、上部消化管内視鏡、超音波検査(腹部、体表)とする。

また、以下の手術を術者として経験する。

《 単径ヘルニア手術、痔核・痔瘻根治術、虫垂切除術、胆嚢摘出術(開腹および腹腔鏡下)、総胆管切石術、結腸切除術、胃切除術、人工肛門造設術など 》

(研修2年目)

入院患者10から20名を複数主治医体制の下に担当。進行癌患者、合併症患者など、より高度な診療技術を要する症例を多く担当する。

検査手技としては1年目に習得した手技をさらに上達させるとともに、下部消化管内視鏡、PTCD、PEGを経験する。

また、以下の手術を術者として経験する。

《 胃全摘術、直腸低位前方切除術、胆道再建術、腹膜炎や絞扼性イレウス等の緊急手術 》

(研修3年目)

1, 2年目と同様に10から20名の入院患者を担当。検査、手術のみならず、癌化学療法、放射線療法など集学的治療についても臨床経験をつみ、診療技術を向上させる。下部消化管内視鏡、PTCD、PEGは術者としての手技を習得する。

また、以下の手術を術者として経験する。

《 肝切除術(外側区域切除術、部分切除区域、葉切除)、膵体尾部切除、膵頭十二指腸切除術、直腸切断術 》

専門医予備筆記試験を受験する。

(研修4年目)

専門医予備試験に合格していれば、研修3年目終了時点で専門医認定試験としての面接試験を受験する資格はすでにあるが、希望者にはもう1年研修を延長することとする。手術診療手技上達の状況に応じて以下の手術を術者として経験する。

《 開胸開腹食道切除再建術、膵頭十二指腸切除術、肝区域葉切除術 》

5. 指導医・専門医・認定医取得医師名

- 山崎 繁 (日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・指導医)
- 石井芳正 (日本外科学会認定医・専門医・指導医、日本消化器外科学会認定医・専門医・指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医、臨床研修指導医、福島医大医学部臨床教授)
- 山田睦夫 (日本外科学会認定医・専門医、日本乳癌学会認定医、日本臨床腫瘍学会暫定指導医、I C D、臨床研修指導医)
- 飯田 聡 (日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本がん治療認定医機構暫定教育医)
- 入江 工 (日本外科学会専門医・指導医、日本消化器外科学会専門医・指導医、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医、日本肝臓学会専門医、日本がん治療認定医、日本胆道学会認定指導医、日本消化器病学会専門医、日本医師会認定産業医)
- 伊藤泰輔 (日本外科学会専門医、日本乳癌学会認定医、マンモグラフィ読影資格)
- 宮本康太郎 (日本外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医)
- 三浦智也 (日本外科学会専門医)
- 齋藤賢将 (日本外科学会専門医)

6. メッセージ

当科の年間手術件数は約 1500 件で、全身麻酔手術件数は 1000 例を超えている。手術症例は胃疾患、大腸疾患をはじめとして食道疾患、肝・胆・膵疾患など大手術を要するものから、単径ヘルニア、痔疾患、虫垂炎など一般外科手術まで多岐にわたっている。さらに治療対象疾患の中で悪性疾患の割合が高く、手術のみならず化学療法、放射線療法を必要とする症例も多く、集学的治療を積極的に行っている。

また、末期がんに対しても在宅医療を取り入れるなど緩和医療にも積極的である。

最後に、当科は緊急手術（外傷、消化管穿孔、急性炎症性疾患、イレウスなど）も非常に多く、多様な、多数の症例を経験したいと希望される方の参加をお待ちしております。